

見えない手と見える心

小坂井中・2 中村 実央

朝の光が差し込む

カルナドラッグストアのガラス戸
エプロンを身につけると
少しだけ 大人になった気がした

「いらっしやいませ」

まだ慣れない声が 空気に溶ける
店内には 日用品がずらりと並び
どれも誰かの暮らしを支えている

歯ブラシ 洗剤

シャンプー ボディソープ

当たり前のようにあるものたち
でもそれを並べる手があることを
私はこの日 初めて知った

段ボールを開けると

なかにはぎつしり詰まった商品たち
重たい箱を運ぶ背中に
働く人の強さを見た

「これ、どこにありますか」

お客さんの問いに 戸惑いながらも答える
「こちらです」と案内すると

「ありがとう」「頑張ってるね」

その一言が 胸に残る
ただの作業じゃない
人と人がつながる瞬間が
この店には たくさんある

店員さんの動きは 無駄がない
レジを打つ手 商品の補充 声かけ
どれも自然で 温かい

「お大事に」「また来てくださいね」

その言葉に 心がふわりとする
働くって 誰かのために働くこと
そして その中に
自分の居場所を見つけること

陳列は ただ並べるだけじゃない
見やすさ 取りやすさ 季節感
お客さんの視線を想像して
ひとつひとつ 丁寧に置いていく

「この棚、きれいに並んでるね」

そんな声が聞こえたとき
心の中で そっとガッツポーズをした

働くことには 苦勞もある

重い荷物 立ちっぱなしの足の疲れ
でもその先にある「ありがとう」が

すべてを優しく包んでくれる

この体験は ただの職場体験じゃない
人の手と心で作る場所で
私は「働く」という意味を知った

カルナドラッグストアで過ごした日々
それは 未来への小さな一歩
だれかの役に立つことの喜びを
胸に刻んだ 大切な時間